

近代機密費史料集成 II

内閣機密費編 西園寺公望関係文書……………全3巻

〔監修・編集・解説〕小山俊樹 ●全3巻揃定価：本体30,000円＋税(分売不可) A5判上製 ISBN978-4-8433-6076-7 C3321

全3巻の構成 2021年7月刊行予定

- 第1巻●西園寺公望関係文書 受取帳 明治44年度
- 第2巻●西園寺公望関係文書 受取帳 明治45／大正元年度
- 第3巻●西園寺公望関係文書 支出帳・諸買上品支払控簿・諸費用受高並仕払高・住友銀行口座書類／解説

発売中

近代機密費史料集成 I 外交機密費編 満洲事件費関係雑纂

〔監修・編集・解説〕小山俊樹

全6巻＋別巻1

●全6巻＋別巻1 揃定価：本体114,000円＋税 A5判上製 ISBN978-4-8433-4612-9 C3321

●第1回配本 全5巻

揃定価：本体80,000円＋税(分売不可)

ISBN978-4-8433-4613-6

2014年10月刊

第1巻●満洲事件費関係雑纂 受払簿

昭和6年度・昭和7年度(1)

第2巻●満洲事件費関係雑纂 受払簿 昭和7年度(2)

第3巻●満洲事件費関係雑纂 受払簿 昭和8年度(1)

第4巻●満洲事件費関係雑纂 受払簿 昭和8年度(2)

第5巻●満洲事件費関係雑纂 受払簿 昭和9年度

●第2回配本 全1巻＋別巻

揃定価：本体34,000円＋税(分売不可)

ISBN978-4-8433-4614-3

2015年2月刊

第6巻●満洲事件費関係雑纂 受払簿

昭和10年度・昭和11年度

別巻●満洲事件費関係雑纂 往復文書・領収書／解説

満洲事変の発生後、1932年1月から1937年3月までの通算62ヶ月にわたり、中国大陸の在外日本公館(大使館・総領事館など)で消費された外交機密費の記録。事変に際し、外務本省から在外公館に支給された多額の機密費は、情報収集のための館員派遣や諸工作のほか、接待用の飲食、諜報員の雇用、警備の強化、新聞社等への対応、弔慰金、館員家族の退避などに用いられた。たとえば接待費を見れば、日本の軍人、満洲国官僚、日本から視察に来た官僚や議員、メディア関係者、地元の主要人物、諸外国の駐在外交官、そしてリットン調査団など、多彩な響応相手が窺い知れる。本史料集は、外交機密費の用途や金額・支払先を記録した受払報告書を中心とする希少な文書を集め、歴史的大事件のなかで行われた、日本の外交・情報活動の実態を浮き彫りにする。

関連企画

伊藤博文文書

〔監修〕伊藤博文文書研究会〔総編集〕榎山幸夫 全127巻

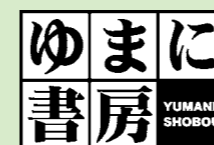
伊藤博文が、メモや手記などをテーマ別に秘書に分類整理させた文書群。近代史研究の最重要史料。 ●各本体16,000円

伊藤公雑纂

伊藤博文文書 第II期

〔監修〕伊藤博文文書研究会〔編集・解題〕梶田明宏 全14巻

「秘書類纂」の内「帝室」未収の皇室制度に関わる史料。皇室典範制定以後の皇室関係史料と憲法に関する史料。 ●揃本体16,000円



〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail eigyou@yumani.co.jp



●特におすすめしたい方●
日本近代史、政治史、メディア史研究者ほか研究機関、大学図書館・公共図書館など。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日

ご注文書

近代機密費史料集成 II 内閣機密費編 全3巻
揃定価：本体30,000円＋税(分売不可)
ISBN978-4-8433-6076-7 C3321

お名前
ご住所

TEL ()

取扱店

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。

内閣機密費編 西園寺公望関係文書

全3巻

近代機密費史料集成 II

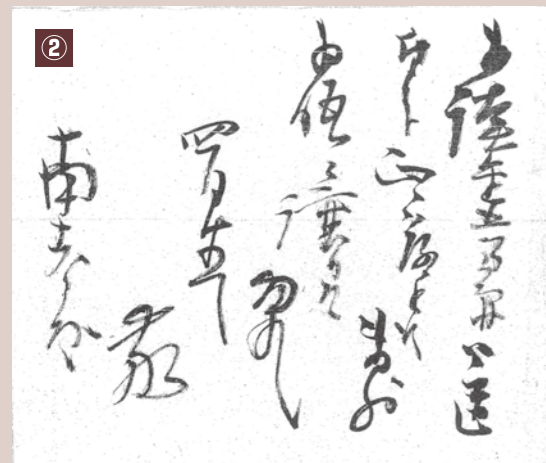
〔監修・編集・解説〕小山俊樹 帝京大学教授

明治末期から大正初期にかけて政権を担当した
政党内閣による政権運営の実態を
金銭供与額とともに赤裸々に書き示す。



◆…… 本文見本 ……◆

適宜縮小してあります



④

三月二十九日	貴族院書記官長 大田孝三郎	金五百圓
	衆議院書記官長 桂田龜太郎	金五百圓
	内閣書記官 西園寺八郎	金二百圓
	内閣書記官 坂田幹太	金二百圓
	市村信成	金五拾圓
	浮洲福雄	金五拾圓
	寺村清久	金五拾圓
	山岸房次郎	金五拾圓
	田中秋實	金五拾圓
	鈴木長官	金五拾圓
	以上共計	金一千五百圓
	外給仕一人	金二百圓
	外二圓	

⑥

明治四十四年九月廿九日	内閣	金一萬圓
	内閣書記官	金一萬圓
	市村信成	金一萬圓
	浮洲福雄	金一萬圓
	寺村清久	金一萬圓
	山岸房次郎	金一萬圓
	田中秋實	金一萬圓
	鈴木長官	金一萬圓
	以上共計	金一萬圓
	外給仕一人	金二百圓
	外二圓	

①

六〇	警部	高林喜平治
五〇	巡査	五人
一五	仕部	近藤 義裕
一五	望月	重吉
一五	村山	六郎
一五	永島	徳太郎
七	給仕	花井 常雄
七	永田	義雄
七	田村	勝用
七	泰内	清一
七	小使	五人
二〇	自動車運轉手	波遠
五〇〇	吉田 要作	
一〇〇	國府 禮徳	
二〇	汁八 吉三郎	
	長之 あり	
	西園寺 八郎	

③

差引 陸軍	六千四百七拾七圓七拾九錢
外	百拾九圓七拾五錢
合計	六千四百七拾七圓七拾九錢
一〇〇圓	外務省 入
	四月二十五日 貳萬圓
	原田 相

⑤

明治四十五年六月	内閣	金一萬圓
	内閣書記官	金一萬圓
	市村信成	金一萬圓
	浮洲福雄	金一萬圓
	寺村清久	金一萬圓
	山岸房次郎	金一萬圓
	田中秋實	金一萬圓
	鈴木長官	金一萬圓
	以上共計	金一萬圓
	外給仕一人	金二百圓
	外二圓	

▼①(明治四十四年十二月)警官・給仕・運轉手なども機密費から手当や祝儀を受け取っていた。▼②(明治四十五年四月)原敬(内務大臣)に交付された五万円の領収証。同年五月に行われた総選挙の資金として使用されたものか。▼③(明治四十四年度末)外務省から内閣に機密費の「上納」が行われた記録。内閣機密費だけで賄えなかつた選挙資金を、外務省機密費で補おうとしたものか。▼④(明治四十五年三月)機密費から手当を受け取った官吏の中には、後に大浦事件で買収工作を行った林田龜太郎の名も見える。▼⑤(明治四十五年六月)新聞・通信記者への機密費支出。この時、曾宮祿祐(やまと新聞)に送られる予定だった五〇〇円が「中止」されている。▼⑥(明治四十四年九月)西園寺八郎(首相秘書官)による首相官邸日常経費の記録。

監修のことば

小山俊樹

「機密費」とは、秘密を要する活動にかかわる資金である。秘密の活動とは、主に機密情報の取扱いに関するものといわれている。戦前には各官庁の手算項目として「機密費」が存在し、戦後は「報償費」と名を変えている。国家予算のなかで、機密費は例外的に各官庁の自主的管理のもとに置かれ、議会や他官庁による用途の査察は制限される。しかも史料の公開は原則として望めないため、これまで機密費使途の実態が明らかになることは、ほとんどなかった。

だが、近年その貴重な史料のうち、戦前期に関するものが各所に残存することが明らかになりつつある。そこでゆまに書房から、『近代機密費史料集成』シリーズの刊行が開始された。本シリーズは、近代日本の公文書・私文書のうち、機密費の実態を示す一次史料を集成して、広く世に問うことを目的とする。

第Ⅱ期に刊行する「内閣機密費編」では、最後の元老とよばれ、内閣総理大臣を二度つとめた西園寺公望のもとに残された機密費史料を収録する。「内閣機密費」とは、現在の内閣官房報償費(官房機密費)に相当し、内閣書記官長(現在の内閣官房長官にあたる)が管理した。戦前期の「内閣機密費」に関する史料は、時の政権の機密事項と深くかわるものであり、ほとんどが消失したと考えられる。そのなかで西園寺家に伝わり、現在、立命館史

資料センターが所蔵する「西園寺公望関係文書」に含まれる機密費関係の簿冊類は、「内閣機密費」史料の貴重な残存例である。これに類する戦前の「内閣機密費」史料としては、他に伊藤博文の文書を編纂した「秘書類纂」中の機密費勘定書類が挙げられるのみである。ただ写本である伊藤文書に欠けている機密費の領収書や銀行口座書類など、機密費予算管理の具体的な様相を示す諸史料をそのまま残しているのが、西園寺文書の重要な特徴である。そこで本史料集では、同史料群の機密費関係部分を写真版の形で全文収録し、他に類を見ない貴重な文書を容易に閲覧できるように編纂した。

一九二二(大正元)年二月、陸軍二個師団増設を求めた上原勇作陸軍大臣の辞表提出によって、第二次西園寺公望内閣は倒壊した。本史料群は、その第二次西園寺内閣の成立(一九二一年八月)から総辞職に至るまでの一年四ヶ月弱で費消された「内閣機密費」の全貌を網羅している。すなわち、前政権(第二次桂太郎内閣)からの機密費引継や、衆議院議員総選挙(一九二二年五月)での費用支出、外交機密費よりの資金流用、首相官邸関連の使途明細、委員会関係者への報酬、新聞・通信社などメディア関係者への資金援助、そして次政権(第三次桂内閣)への引継直前の支出など、政党内閣による政権運営の実態を示す史料が、金銭供与額とともに赤裸々に書き残されている。原史料ならではの存在感は、読む人を圧倒するであろう。

日本近代政治史・メディア史の専門家のみならず、現在の政治などに関心のある方にも、新たな発見をもたらしてくれると期待される。広く活用していただければ幸いである。(帝京大学教授)

- 近代日本の機密費に関する希少な史料を編纂刊行。
- 第Ⅱ期は、「西園寺公望関係文書」(立命館 史資料センター所蔵)から、第二次西園寺公望内閣機密費資料を編纂して刊行する。
- 内閣成立から倒壊までの約一年四ヶ月にわたる機密費予算管理の具体的な様相が、残された領収書や銀行口座書類などから如実に立ち現れる。
- 前政権からの機密費引継に始まり、衆議院議員総選挙での費用支出、外交機密費からの資金流用、首相官邸関連の使途明細、委員会関係者への報酬、メディア関係者への資金援助、そして次政権への引継直前の支出など、政党内閣による政権運営の実態を示す史料。
- 機密費の交付先として、原敬(内務大臣)、西園寺八郎(首相秘書官)、新聞・通信社関係者、官吏、さらには、首相官邸付の警官、給仕、運轉手なども登場する。
- 解説では、本書収録史料のみならず、伊藤博文文書「秘書類纂」中の内閣機密費勘定書類も取り上げ、近代の内閣機密費制度について考察をくわえる。

◆…… 本書の特色 ……◆